

# 新ブランド柿「靈峰」誕生に向けた活動

湖北農業農村振興事務所農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

伊吹果樹組合は植栽から64年の歴史を持つ、渋柿「平核無」<sup>ひらたねなし</sup>の県内有数の産地です。現在、組合員27名の半数近くが80歳を超え、4.7haの産地の維持・発展が難しくなりつつあります。また、現在の平核無の収益はピーク時に比べて約70%と低迷しています。

そこで当課では、産地の活性化を目的に、平核無の新たなブランド柿の商品化に向けた支援を行いました。

## 【普及活動の内容】

当課は新たなブランド柿を作るために、低コストで新食感の柿を生み出す樹上脱渋<sup>じゅじょうだつじゅう</sup>という新たな脱渋方法に着目し、組合に、本技術を活用した柿生産を提案し、その取組を支援しました。

研修会では、平成27年の調査結果をもとに、樹上脱渋の実演も含め説明し、満開後110日の適期処理を促しました。また、収穫後の選果作業のポイントについて支援しました。樹上脱渋で渋が抜けた柿には、証として果肉に褐色のゴマ状斑が入ります。選果時に渋の残った柿が混入するのを防ぐため、柿を切らずにゴマ状斑の有無を判断できる、LED光装置を製作し、活用してもらいました。

また、当課は組合への直接的な支援と同時に、これらの取組を地域の新たなブランド柿として育てるため、JAや市・商工会等の組合を支援する関係機関に連携を働きかけ、その支援体制の強化を図りました。

## 【普及活動の成果】

普及活動の結果、組合員15名が約5,000果の樹上脱渋に取り組み、伊吹山に因んだ新たなブランド柿「靈峰」<sup>れいほう</sup>が誕生しました。そして、当課の呼びかけでJAや市の支援体制が強化された結果、靈峰の記者発表を開催できました。「靈峰」は道の駅で従来の単価に比べ約4倍の高単価で販売され、組合員の自信につながりました。関係機関の支援が強化された結果、過去3年に比べ平核無の平均販売単価は46%高くなり、全体の売上げも24%向上しました。

来年度、組合は「靈峰」を受注生産し、商工会と連携したネット販売を展開することとなりました。当課は「靈峰」の本格的な生産に向けて、引き続き技術支援を行っていきます。さらに、産地活性化のための次段階として、H28に策定した4集落にまたがる柿産地としての人・農地プランを活用した、新たな担い手確保のための仕組みづくりを支援していきます。



写真 「靈峰」記者発表  
(左上：樹上脱渋でゴマ状斑が入った靈峰)

### ◎対象者の意見

新しいブランド柿「靈峰」の生産を支援してもらい感謝している。来年度をさらなる飛躍の年ととらえ、引き続き支援願いたい。